

夢の実現にむけて仲間と努力する「うぶやま夢塾」

熊本県産山村

● 活動名

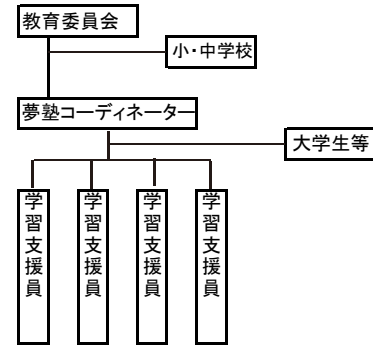
うぶやま夢塾

● 関係する学校名

産山村立産山中学校、産山村立産山小学校

開始年度	平成 26 年度	学級数	3 学級	生徒数	33 人
主な実施形式	<input checked="" type="checkbox"/> 個別指導 <input checked="" type="checkbox"/> 授業形式 <input checked="" type="checkbox"/> 自習 <input type="checkbox"/> グループ学習 <input type="checkbox"/> その他 ()	生徒の参加人数	平均人数		
			20 人		
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 0 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 1 人	実施場所	施設名：中学校 実施場所：教室等
ボランティアの数	登録人数 0 人	属性			
参考 URL	http://www.ubuyama-v.jp/2017/12/22/				

● 体制図



● 連絡先 産山村教育委員会 ☎ 0967-25-2214

● 活動の概要・経緯
「産山で教育を受けて良かったと実感できる教育の創造」をテーマに、将来、村の豊かな発展に寄与し、あるいは広く国際社会で活躍する有為な人材に育ってほしいという願いのもと、平成 19 年度から産山村教育改革を始めた。その中で、学力の定着がみられるものの、家庭での自力学習が困難であったり、学習習慣が十分に身に付いていなかったりする小中学生等へ学習機会を提供するため、平成 26 年度試行（村単独予算）、27 年度から「うぶやま夢塾」を設置し、小中学生等の学力及び地域の教育力の向上を図っている。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

土曜日の子供たちの体験活動「わいわいヒゴタイ土曜塾」において、平成 26 年度事業で大学生（尚綱大生、下関市立大生）を講師に学習塾を実施したのが「うぶやま夢塾」の前身であり、翌 27 年度から地域未来塾として本格的にスタートした。日常的には、教育委員会の指導主事が中心になって学習支援に当たっているが、夏休みから後期にかけて下関市立大学生による学習支援を受け入れ（村内の宿泊施設を利用し、3 週間程度滞在）、講師として指導してもらっている。個別学習が主で、基礎基本の定着を図るようにしている。その際、学校内の施設を使用することで、勤務中の教員が活動のサポートをしたり、教材内容について各学年に合ったものを相談したりして、より成果が上がるよう配慮している。また、中学生には、高校入試の模擬試験を受ける機会もつづけている。

【実施にあたっての工夫】

指導者確保の面では、なかなか指導できる方が村内で見つからず、大学生の学習支援実習期間を利用して。また、内容的な面として、村内には塾がないので、中学生を対象に実施する模擬試験は、自分の実力を試す場となり、将来の進路について考える機会とするようにしている。さらに、学習の解説などについては、大型の電子黒板等の ICT 機器を使って行うことで、より効果的に理解を深め受験に向けた学習にもつなげている。また 26 年度に発行した「産山村 家庭学習の手引き」（村内全世帯）を活用して、家庭での自主学習に結びつくよう「0 歳からの育ちをつなぐ一貫教育」を目指している。

● 事業を実施しての効果・成果

長期休業中は、学校から出された学習課題をまずやり遂げることを目的に自主学習を中心に取り組んだ。そして、分からないことや質問があれば学習支援員や大学生がサポートを行うという体制で行った。家庭での自力学習が困難な児童生徒、学ぶ習慣が身に付いていない児童生徒にとっては特に効果的であった。長期休業期間に「うぶやま夢塾」で学習時間を確保し、メリハリを持って過ごしたことで、基本的な生活習慣を身につけさせることができ、長期休業明けの学校生活めもスムーズに移行することができた。また大学生が提案し、授業を行うなど継続して関係を築くことで、双方向の効果が生まれている。



夏休みの大学生による指導



電子黒板を使った解説

ポイント

村内の自然豊かな宿泊施設に、村外の大学生を招いて学習支援実習を行うなど、地域資源と外部資源を効果的に取り入れた実践です。